

「小学生になっても遊びに行くよ
だって幼稚園、とっても楽しいんだもん」
そんな声が聞こえてきそうな幼稚園



幼稚園に入る前のお子さんとお母さんのための、ミッキーとベビーマッキーという誰でも参加できる地域交流を行っています。お子さんは園児と遊び、お母さんは情報交換の場として、とても人気があるそうです

幼稚園に入る前のお子さんとお母さんのための、ミッキーとベビーマッキーという誰でも参加できる地域交流を行っています。お子さんは園児と遊び、お母さんは情報交換の場として、とても人気があるそうです



園長先生がお母さんの悩みをいつでも聞いてくださるそうで、「みなさんの力にすこしでもなれたらいいな、と思っているんですよ。」とのことでした

REPORTER'S EYE



【リポーター】
岩沢 香さん(編ノ木在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

家庭に居ては学べないことを友だちと関わりながら学びます
狭山市には9園の公立幼稚園があります。今回は狭山市の西南に位置する水富地区の、水富幼稚園に伺いました。園児たちが「裏山」と称する、山登りや虫とりの楽しめる小高い山が正門前にあり、近くに白鬚神社や鯉が放流してある小川が流れ、根岸グラウンドなども身近にある自然を満喫できる園です。園庭には色とりどりの「ふうせんかずら」がかわいい実をつけ、大きく成長したヘチマが子どもたちを楽しませています。



水富幼稚園
(根岸26 ☎52-7322)

水富幼稚園は、現在4歳児56名、5歳児78名の合計134名が通園しています。近くにお住まいのかたは、毎朝8時50分ごろに仲良く手をつないで歩く親子をご覧になったことがあると思います。水富幼稚園は、ほかの公立幼稚園と同じように、たくさん歩いて身体を鍛えることと、交通规则を体験の中から身に付けさせることを目標に、徒歩での通園を原則としているのだそうです。雨が降っても風が吹いても毎日のことです。が、約束を破るお母さんはいないそうです。初めは「毎日のことで大変だな。」と思っていたかたも、卒園するころには「とてもいい思い出になりました。雨の日も風の日も、四季折々を肌で感じながら親子で一緒に通ったことで、一層絆が深まった気がします。」

「小学校ではできない貴重な経験でした。」というお母さんの声がたくさん聞けるのだそうです。また、園庭だけでなく、裏山や根岸グラウンド、遠いところでは智光山公園までも遊びに行くそうです。子どもたちは元気いっぱい、山登りやどろんこ遊びなどを体験しながら、身も心も大きく育つていくのだそうです。細野園長は「砂山の中に宝石が隠れているのよね。だから英会話も音楽も大事かもしれないけれど、一番大切なのは、友だちといろいろな体験をしながら、外で遊ぶことね。」と朗らかに笑っています。ここに、この園の素晴らしさが表れていると思いました。



「ビリヤードには当て方、突き方、力の入れ具合の三要素の組み合わせが無数にあります。これがこのスポーツの魅力で、私を含め多くの人びとが取りつかれているんです。これからも一生追い求め続けたいですね。」

初めて本物のキューで突いた
あの感触は一生忘れないですね



小林 伸明さん

(ビリヤード 1974・84年世界チャンピオン)

ビリヤードが大流行した昭和30年代、少年だった小林さんの周囲でも「横町を曲がったら球の音がする」と言われるほど大変な人気でした。独特の音に魅せられてビリヤード場に毎日通い、聖域を感じさせる場内を窓からのぞいては、球の不思議な動きに無限を感じ熱心に見ていたそうです。そして家に帰ると、こっそり持ち帰ったスマートボールの球を使い、菜箸をキューにみたてて、魚が魚屋だったためにたくさんあった魚の木箱を台にして遊んだそうです。そのうちに本物のキューの先には革が付いていることを発見、両親の革スリッパを少し切り、菜箸に付けて突いてみると、回転が今までとはだいぶ違います。うれしくなってきたので、今度行き、今度は突く前に粉のような物をつけているのを見て、チョークの存在を知り、これもナイショで使



「狭山市は都会の喧騒を忘れ、雑木林の中で物思いにふけり、夜は静かに読書を楽しめる素晴らしいところですね。」と水野にお住まいの小林さん

つてみると、球がさらによく回転することに感激したのでした。こんなふうに毎日手作りビリヤードで遊んでいるうちに、どんな球でも自在に突けるほどの腕になりました。そして数年後、初めての本物を使ったのゲームで最初の一突き・・・夢に見たその感触に心を打たれ、数十年経った今でも忘れられないそうです。少年時代から抜群の感覚を持っていた小林さんは、スリークッションという競技で20歳のとき国内ではすでに「鬼才現わる」と言われました。そしてその後世界に臨み、74年に当時ビリヤードの神様と言われ、11年連続チャンピオンだったベルギーのクールマンズという選手を破り、見ごと世界チャンピオンに輝いたのでした。現在も現役でビリヤードを続けている小林さん。どんなに忙しくても一日1ゲームはかかしたことがありません。これからはビリヤードのオリンピック正式種目の認定をめざし、活動を続けていきたいとのことでした。

私の趣味

手芸いろいろ

佐々木君江さん (東三ツ木在住)



手にしているのが、一番最初に作ったつじの押し絵

東松山の老人大学を卒業するとき、仲のいい友だちの「自分たちで手芸を勉強して、教えようよ。」という一言がきっかけで、初めて押し絵に挑戦。それから、友だちとおしゃべりしながら手芸を楽しんでいきます。今までに木目込み人形、はり絵、編み物、パッチワーク、刺しゅう、ビーズの小物などなど、ありとあらゆる手芸をやってきました。そして作品を家に飾っておくと、遊びに来た誰かから「お土産として持ち帰ってくれます。これが私の生きがいでもあり、一生懸命作ったものを大好きな人が喜んでくれるのは、とてもうれしいのです。」私の家の周りには、近所のかたがとて、も親切で、本音によくしてくれます。昨年、私の古希を記念して作品の個展を自宅で開いたときも、親身になって協力してくださいました。そして延べ百数十人のかたがたにおいでいただき、大感激しました。私は今までの人生で、誰かを憎んだり、恨んだりしたことがありません。それほど周りのかたがたに恵まれて、ありがたいことです。これからは、人への感謝の気持ちを忘れずに、楽しく手芸を続けていきたいです。